

令和元年度栃木県文芸家協会夏季講演会

令和元年 8月 18日 13:30～

ホテル丸治

- 演 題 「負に導かれ 生かされて」
- 講 師 高杉 治憲 (本名 篠崎 暢宏)
- 略 歴
 - (1) 昭和21年2月13日 佐野市小中町に篠崎家次男として誕生。
 - (2) 学歴 立教大学法学部法学科 昭和43年3月卒業
 - (3) 職歴 総合建設業 (父親から継承した家業) 代表取締役社長歴任。自ら興したゴルフクラブ、栃木県初のスーパー銭湯2店舗、スポーツクラブ等創業&経営) 代表取締役社長歴任。
現職 那須八溝物産株式会社 (那須小川ゴルフクラブ、南平台温泉ホテル) 代表取締役社長兼理事長。
 - (4) 栃木県文芸家協会 副会長
 - (5) 【73歳6か月の我が人生】

31歳で自ら興したゴルフ場開発事業の失敗で96億円負債による大倒産を経験したが、何かに導かれるように8年間で殆どの債務を弁済し優良企業として再起する経験を得た。

その後、順調な期間が過ぎて行ったが、50歳を超えてから、嘗て、ゴルフ場経営事業の師であり、成功者として尊敬していた義父から乞われて、自分の会社と兼務で後継を引き受けた会社が、あろうことか、57歳の時に経営危機に陥った。昔の会社再建を思い起こし、あらゆる手を尽くしたが、結局、義父逝去後の65歳の時に115億円の負債で民事再生を申立て、その直後に起きた東日本大震災罹災による大被害で二度目のどん底を迎えた。昔と同じように何かに導かれてこれを吸収し乗り越えて69歳で終結、現在も経営責任者として再生の先頭に立っている。

<演題「負に導かれ 生かされて」について>

私は、経営責任者として人生で二度、負債100億円の事業破綻に追い込まれてその再建再生の先頭に立ってきた。

最初の倒産の直後には、実の父母を始め家族に夜逃げをさせたり一家離散もあった。自身、債権者から告訴され、22日間拘留されたこともあった。誰から見ても、篠崎兄弟は二度と再起できないと親族始め殆どの関係者から思われたことも無理はなかつた。私自身、一生掛かっても借金を返せないかもしれない、生きていただけでありがたいと思う日々があった。

ところが、である。昭和52年12月27日に貸金債権者群と裁判所において和解が成立して、正月明けから再建が開始されて二日目、昭和53年1月3日の早朝は夜中に降った大雪による白銀の世界だった。この、絶望的なスタートである筈のこの大雪の日に思いついた「ゴルフ場の除雪システム」が、100億を完済する奇跡に繋がり、後にNHKテレビの全国放送で紹介され、その後あらゆるマスコミから「除雪システム日本一」と評価され債務完済の奇跡の再建に繋がったのである。

以下、ご期待を!!